

京都府福知山市の仏教関係団体所蔵とみられる戦時 下紙芝居

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2021-01-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 神村, 朋佳 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4510

京都府福知山市の仏教関係団体所蔵とみられる戦時下紙芝居

児童教育学部 児童教育学科 神村 朋佳

本研究は、古物を扱う方から譲り受けた京都府福知山市ゆかりの紙芝居について、その資料的価値を、時代背景、資料の来歴と地域の歴史、文化、風土などの環境、特に教育、児童文化史的事項との関わりにおいて探り、読み解き、位置づけることを目指して企図された。

資料は、およそ昭和 13 年から 24 年の間に発行された 26 作品 (と不明 1 枚) の紙芝居である。印影や書き込みから京都府および福知山市の仏教関係団体、寺院が所蔵していたものと推定された。26 点というのは、この時期の紙芝居としては、決して少なくない数であり、それが地域や所蔵、使用実態がある程度推定できる状態でまとまって出たことから、まずは今後の研究に資するべく資料の整理、情報の整備を行い、学会に報告することが急務であった。そのうえで、同時期の同種の資料との比較、歴史的事象や風土などとの関わりに関して、現地調査、資料調査によりその一端を明らかにすることを目的とした。

資料の概要、特徴として、①ほぼ完本といえる、②紙芝居 26 点のうち 22 点が昭和 16 年から 20 年に発行されたものである、③発行時期と内容から、いわゆる「戦意高揚」紙芝居、「国策」紙芝居が含まれる、④印影や書き込みから京都府および福知山市の仏教関係団体、寺院の所蔵と推定できるという点が指摘できる。

前後のつながりが不明の 1 枚があるが、それをのぞく 26 点については、仕掛けの差し込みを含めて欠けがない。

紙芝居 26 点のうち、22 点は、昭和 16 年から 20 年の間の発行である。この間、昭和 15 年の末にかけての大政翼賛会の発会、内閣情報局の発足、16 年 12 月の太平洋戦争開戦から 20 年の無条件降伏まで、国民総動員体制で突き進んでいく渦中において、内閣情報局の指導により、児童文化に関する様々な協会、団体の統廃合、出版物の統廃合が進められ、紙の割り当てなどの物理的な統制もあいまって、児童文化財や出版物の内容も大きく変容した。その時代を映して、本資料にも当時の国策に沿ったもの、いわゆる「戦意高揚」紙芝居、「国策」紙芝居が複数含まれている。また戦後の

GHQ による出版統制期の作品も若干含まれる。

資料には、所蔵印、住所印などの印影や墨、朱、鉛筆による書き込みが複数残っており、それにより京都府および福知山市の仏教関係団体、寺院の所蔵と推定しえた。

また、資料のうち、『よいしせい』という紙芝居は、印刷されたものではなく、絵も文字も手書きで、絵を描いた紙と台本を書いた紙を表裏で貼りあわせた作りとなっている。嵐演激作画との記載を手がかりに探索してみたところ、作者は法鷲寺の元住職 (先々代か) と推定しえた。こうした事実と推定を元に現地調査を行い、これらの寺院の位置関係、立地条件などもふまえて、歴史的文化的背景について検討を加え、資料の位置づけを試みた。

資料の内容は、①仏教に関するもの、②地域性の感じられるもの、③国策に沿った内容のものに大別できる。①は、所蔵者の性格から、伝道、啓蒙的な見地で選択されたものであり、資料中には、仏教団体の発行したもの、非売品も含まれる。仏陀や宗祖などの伝記的なものが多いが、異国情緒の喚起につながり、大東亜圏への興味、関心を高める意義が認められた可能性を指摘したい。

先にもふれた『よいしせい』については、同じ題名の印刷紙芝居が刊行されていた。印刷紙芝居と手造りの紙芝居の比較検討を行った結果、画面構成やモチーフの類似、一致が顕著であることから、おそらく印刷紙芝居を元にして、それをまねて作られものと推定できる。しかし同時に、印刷紙芝居の最後の 4 枚が、手造りの紙芝居からは意図的にカットされていることも判明した。一見、牧歌的、道徳的な当該作品において、そこだけに軍人が登場する 4 枚である。制作者の意図や制作の背景については、今後も慎重に検討を進めたい。

本調査、研究の経緯と成果は、2019 年 11 月 24 日に、日本児童文学学会第 58 回研究大会にて、「京都府福知山市の仏教関係団体所蔵とみられる戦時下紙芝居について—資料の全体像と歴史、風土、文化的背景からみる資料的価値—」と題して発表した。同学会紀要第 53 号に投稿中である。